

# JAMAGAZINE

Japan Automobile Manufacturers Association

2017 January

# 51



**特集** 新春対談

一般社団法人 日本自動車工業会



時間に縛られない自由さが  
クルマの心地よさ。

## 寄り道は クルマならではの 旅の楽しみ!

思わぬところで、  
えっ、スゴイ! って感動や、  
なにコレ? っていう驚きや、  
ワ~っ! っていう楽しみに会える。

素敵なワクワクを  
たくさんみつけよう!

さあクルマで、  
**Let's YORI-MICHI Drive!**

安全運転で楽しいドライブ!!

クルマの正しく安全な使い方については <http://www.anzen-unten.com>

**JAMA** 一般社団法人 日本自動車工業会  
JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.  
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館



# #51

## JAMAGAZINE 1月号

発行日 平成29年1月26日  
 発行人 一般社団法人 日本自動車工業会  
 発行所 一般社団法人 日本自動車工業会  
 〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館  
 広報室・電話番号 03(5405)6119  
 ©禁無断転載：一般社団法人 日本自動車工業会

## JAMAGAZINE 51 CONTENTS

一般社団法人 日本自動車工業会会長 **西川廣人**  
**2017年に向けた取り組み**..... 2

### 新春対談

一般社団法人 日本自動車工業会会長  
 モータージャーナリスト・タレント  
**西川廣人 × 竹岡圭さん** ..... 4

### 自工会トピックス

**平成29年自動車工業団体新春賀詞交歓会**..... 11

### 写真特集

**「2017年 北米国際自動車ショー (デトロイトショー)開幕」**..... 12

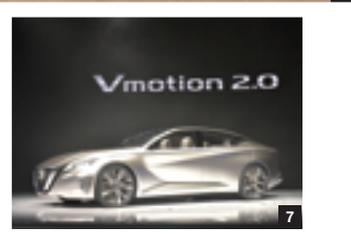
**第45回 東京モーターショー2017**  
 —ショーテーマとテーマロゴの決定— ..... 16

### 記者の窓

日本経済新聞社 杜師康佑 **「広島という街」** ..... 18



**第45回東京モーターショー 2017**  
 会期：2017年10/27 (金)～11/5 (日)  
 会場：東京ビッグサイト



- 1 西川自工会会長
- 2 対談の様子
- 3 クルマのおもちゃで遊ぶ子ども達
- 4 東京モーターショー2017 ショーテーマとロゴの決定
- 5 自動車工業団体新春賀詞交歓会
- 6 7 2017年 北米国際自動車ショー (デトロイトショー) 開幕

### 表紙イラストレーション



**繭山 俊**  
 東京藝術大学 美術学部 デザイン学科 3学年  
 自動操縦やAIの発達の中で、モビリティに求められるものも変わってきています。しかし、そんな中でも自動車には今まで通り、「憧れ」を背負った存在でいてほしいと思います。  
 「JAMAGAZINE」では表紙に、美術を専攻している大学生などの皆さんの作品を掲載しています。



一般社団法人 日本自動車工業会  
さいかわひろと  
会長 西川 廣人

## 「安全・快適で持続可能な モビリティ社会の創造」

私たちの目指すところは、交通事故ゼロ、渋滞ゼロ、そして自由な移動や高効率な物流であります。この有力な手段として、自動運転の導入・普及の取り組みを加速してまいります。自動運転技術は少子高齢化、地方の過疎化が進む中、特に高齢者の方の運転による事故を防ぐ意味でも、安全への貢献が一層期待されています。一方、現時点で実用化開発が進んでいる、いわゆるレベル2を超えた、高度な自動運転を実現させるためには、さらなる技術開発と同時に現在とは全く異なる社会システムも必要になります。そのための法的整備や交通環境整備が不可欠であり、引き続き、産官学の取り組みに積極的に参画してまいります。

地球温暖化対策も言うまでもなく重要な課題と捉え、日本政府が掲げる温室効果ガス排出量削減の目標の達成

に向けて取り組んでまいります。中でも、次世代自動車の開発・普及の推進は、日本の自動車メーカーの得意とする分野であり、普及に不可欠なインフラ整備についての政府からのご支援もいただきながら、技術・商品開発を加速してまいります。

## 「国内市場活性化」

2017年10月27日より第45回東京モーターショーを開催します。東京オリンピック・パラリンピックが開催される2020年をターゲットに、2017年、続く2019年のモーターショーを主要なマイルストーンとして位置づけ進めてまいります。狙いとしては2つ、世界へ向けては技術の進化、将来のモビリティ社会を示す場として東京モーターショーの存在感を大きく高めること。国内においては、クルマ離れと言われる若者を含め、従来よりも幅広い皆

様から注目されるショーとすること、これらを念頭に企画を進めてまいります。ショーテーマは「世界を、動かそう。BEYOND THE MOTOR」とし、ロゴはTOKYO MOTOR SHOWの頭文字である「TMS」をデザイン化しました。従来の枠を超えて様々なアイデアやテクノロジーを取り入れ、モーターショーそのものの進化にも取り組んでまいりますので、是非ご期待下さい。皆様にもこの魅力を大きく発信していただき、ショーの活性、そして将来のモビリティ社会の活性にご協力いただきたくお願い申し上げます。

一方で、実際の市場の活性化、つまり消費という意味では、自動車ユーザーの過重な税負担を解消すること、自動車関係諸税の簡素化、そして軽減が不可欠となります。引き続き、税制の抜本的な見直し、具現化へ向けて活動を継続してまいります。

## 「事業環境の改善」

TPPや日EU EPAを始めとする自由貿易の拡大は非常に重要なポイントであり、引き続き、積極的にサポート、働き掛けをしていく方針であります。

また、日本の先端技術の優位性を発展させるため、特に法規・認証に関する国際基準認証調和活動そして新しい技術分野の国際標準化活動、この活動も積極的に進めてまいります。

経済、市場、地政学的にも変化が大きい環境ではありますが、技術の進化、市場の進化をチャンスと捉えて競争すべき所は競争して、協調して進めるべき所は協調して、より効果的な活動を進めてまいります。

(2016年12月22日 定例会長記者会見での冒頭発言より)


 巻頭  
対談

1月号



一般社団法人 日本自動車工業会 会長

モータージャーナリスト・タレント

 さいかわ ひろと      たけおか けい  
**西川 廣人 × 竹岡 圭**

**西川** あけましておめでとうございます。

**竹岡** あけましておめでとうございます。よろしくお願いいたします。

私は「おぎやはぎの愛車遍歴NO CAR,NO LIFE!」という、カートークバラエティのテレビ番組の司会をやらせていただいておりますので、今日はまず最初に、西川さんの愛車遍歴からお伺いしたいと思います。

**西川** そちらの番組は本当に立派な愛車遍歴ですね。僕はそんなに立派なのはないですよ。僕らが幼い頃はモーターショーというのは別世界でした。初めてモーターショーに自分の足で行って楽しんだのは高校生の時です。昭和40年代の半ばぐらいで、その頃は四輪なんか興味ないんです。ひたすら端から端までバイクにまたがりました。ちょっとギアを

変えてみたり。買うとか買わないではなくて、ひたすら乗ってバイクっていいなど。

**竹岡** 乗り物は小さい時から好きでしたか。

**西川** 特に意識はしていませんでした。僕らの時代というのは、男の子のおもちゃは全部、車とか電車とかでした。昔、親父が買ってくれたミニチュアカー三つ四つしかないので



すから、それでずっと遊んでいました。今思えばあれは間違いなく「トヨエース」でした。それから、「ブルーバード」の一番最初のモデル。というスタートですからだいぶ今の方とは違いますよね。

**竹岡** 免許はいつ取られたのですか。

**西川** 20歳になる直前でしたか。第1次オイルショックが終わった後で、車の運転でガソリンがあるのかなという時代だったのですが、やはり車が欲しいと、親にせがんで安い中古で「スカイライン」のセダンを買いました。

**竹岡** いきなり大きい車ですね。

**西川** たまたま知り合いに中古車店の人がいて、そこで買ったのが最初です。中古車の写真が載っている雑誌を見ていて「スバル1000」かスカイラインの安いGTではない1600セダン。最後のチョイスは、



子ども達に大人気のクルマのおもちゃは、クルマファンの入り口

あるクライテリアがあって、女の子を乗せるためにはコラムシフトは駄目なのです。

**竹岡** え〜？ どうしてですか？

**西川** あの頃コラムシフトは格好悪い、フロアシフトの方が新しい。パーキングブレーキも前で引っ張るのは

駄目でした。

**竹岡** いかにも女の子にもてるかという理由で選ばれたわけですね。

**西川** それだけです。

**竹岡** やっぱりそうなんですか(笑)。

**西川** もう基本的にそれだけですから(笑)。けどなかなか乗ってく



れる人はいないので、いつも男ばかりでした。その次は、当時は「ケンとメリーのスカイライン」が出たばかりで、一つ前の「ハコスカ」も人気がありましたが、やはりGTでないと格好悪いではないですか。なんとか「2000GT」の中古が欲しいと思ってずっと探していたら、その知り合いの店でいいのがありますよと言われて、親父に、絶対会社に入ったら返すからとお金を借りてというかもらっちゃって(笑)、買いました。

**竹岡** では学生時代はスカイライン2台を乗り継いだわけですね。

**西川** 結果的にそうですね。その後日産自動車に入るとってはいませんでした。

**竹岡** 日産に入ってからはずっと日産車ですか。

**西川** そうです。ですが、車との出会いということから言うと、会社に

入ってしばらくして米イリノイ大学に留学したのですが、田舎なので、冬は寒いし、車がないと生きていけない。それでアメ車の中古を買いました。その頃はオイルショックでエンジンを小さくしないと駄目だということで、「キャデラック」のフルトリムのV8車の中古よりも、「カローラ」の1年落ちの方が高かったのです。日本車は高根の花。しょうがない、壊れるけれどもアメ車を買うかという時代でした。

**竹岡** 何を買ったのですか。

**西川** クライスラーのプリムスというブランドの「ダスター」です。僕はお金がなかったので中でも一番安いクライスラー。1200ドルで買って、修理に200~300ドルかけましたかね。それを600ドルで売りました。それでも買う人がいるんですよ。その頃の生活からしましたら、その

程度です。その後、仕事で駐在員として行きましたが、駐在員はなんてぜいたくなのかと思いました。こんなことしていたらアメリカの中古車、そのもっと下の学生街で乗っているような中古車の実態なんか絶対分からないなと思いました。

**竹岡** でも実体験ができましたね。

**西川** 面白いです。アメリカの社会というのはそういうふうにできていて、車の使い方の深さみたいなどころを下から見ることが出来ました。だから駐在員で行っている時は、自分は表面のことしか分からないという前提で仕事をしていました。

**竹岡** モーターショーには行きましたか。

**西川** 仕事を始めて駐在するようになってからモーターショーには行きましたが、80年代の頃、アメリカのモーターショーはディーラーショー



という色彩が強かったです。

**竹岡** 今年は東京モーターショー開催年ですね。

**西川** 今年はとにかくモーターショーを盛り上げないといけません。企画も評価も考え方が昔ながらのモーターショーになっています。もちろん車が好きで来た人は良かったと思って帰るでしょう。ですが、そういうふうには思わなくなっている人がいっぱいいるわけです。そういう人にこそ来てもらわなくてはいけないではないですか。

**竹岡** 確かに、そういう人に来てもらわないと車好きが増えていきませんよね。

**西川** よく異業種の若い人たちと話すのですが、そういう人の中には、車好きの人もいれば、車はタクシーしか乗らないという人もいますし、普段彼らは車の世界はほとんど知り

ません。ですが前回の東京モーターショーは、車を見せる以外にハイテクを見せました。トヨタさんがちょっと変わった裸の車を出したり、日産は将来の運転席がなくなってしまうようなものを出したり、あのようなものがとても良かったようです。

活性化する時にこそ既成概念の中からではなくて、外の視点で注目を集めるということが必要ではないかと思えます。ちょっと王道から外れるという発想は自動車会社の中からは絶対出てきません。

それから正統派のアプローチとしては、やはり海外から注目を浴びなくてはいけないではないですか。そうするとここはやはり技術です。とにかく正統派の技術で先に行っているぞというのをお見せするということが大事でしょうね。

**竹岡** そうですね、ハイブリッドとか電気とか自動運転とか。

**西川** 一つ先に行くものを出しましたよとか、出ますよと。新車だけではなくて新技術をお披露するのは東京モーターショーが一番いいのだというふうに思ってもらえるといいですね。例えばフランクフルトとかパリはやはり自動車のショー、だとしたら、17年の東京は技術のショーだというふうに思ってもらって、そうすると19年にもっと盛り上がると思えます。

**竹岡** そうかもしれないですね。例えばジュネーブはデザインのショーというようなイメージがあります。日本はやはり最先端技術で一步未来を見せますよというような感じで。

**西川** もし今年それがうまくできたらもっと期待が高まって、19年にも

うちょっと見せる。翌年は東京オリンピック・パラリンピックの年。政府の皆さんと協力して、19年、20年と世界から日本への注目を喚起できるのではないですか。そういう方向に持っていったらいいですねと、これは各社の社長さんと共通した感覚です。

**竹岡** 自走式のマイクロモビリティを、観光がてら会場周辺で走らせるなんていうのは楽しくていいですよ。会場内もそう。東京ビッグサイトは東館と西館に分かれているではないですか。あの間の通路で、トヨタさんの「ウイングレット」やホンダさんの「UNI-CUBβ (ユニカブベータ)」などに、どんどん乗せたいのにと、思っていたんです。日産さんも「チョイモビ」サイズのものはお台場の街中を走らせるとして、きっと他にも何か作るでしょ？

**西川** そうなのがところどころにちりばめられていて。でも自動車会社は真面目ですから、できたものから順番に出していく感じになります。一方、異業種の皆さんは、こういうことをやるよと先に言っています。先に言った方が注目を集めて、何か自動車会社はカメの歩みみたいな感じがあるでしょう。だから確実に見せると同時に、こういうイメージを想定して1個1個やっている

のですよというのをデモンストレーションするために、お見せする。

今モーターショー委員会にはアニメーションをつくれなかとお願いしています。今の太郎さんと花子さんがいて、×年の太郎さんと花子さんはこんな生活をしていると。自分たちで車を動かすのですけれど、自動運転もあって。どういうふうに使われているかというのをうまく表現して、その中のワンシーンは実は既にあるのですよというふうにはできないかなと。

**竹岡** 分かりやすいですよ。それなら多くの人に伝わりそう。

**西川** 日本はもともとアニメーションが得意ですから、何かできないかなと。

**竹岡** それはいいですね。ちょっと先の未来を見せつつ、モーターショーでは実際体験できるものを用意する。未来的なものは体験型にした方が、親近感持てると思うんですよ。西川さんも実際、自動運転の車も乗っていらっしゃるでしょう？

**西川** バンバンは運転してないですよ。ただ自分でトレーニングしたりテストをしたりしてはいます。

**竹岡** どうですか、現状は。

**西川** 自動運転だけではない、いろいろな運転サポートがありますよね。あつたらうっとうしいなと思うタイプだったのですが、乗っ

てみるといいですね。レーン追従するのも、使い方さえ慣れば普通のクルーズコントロールの延長線上でちょっと楽をしようかと使えるようになる。若い人は使いこなしが早いでしょうね。

**竹岡** 早いですね、ゲームで育っているから。最近では車のメーター、インパネも、iPadを張り付けてあるようなものが結構あるではないですか。私はあれに違和感を感じていますが、若い人は慣れているから全然違和感がないみたいですよ。

**西川** そうでしょう。車のコックピットはこういうものだという。

**竹岡** 概念が、先入観があるから私たち。

**西川** もう、ちょっと違うのですよね。

**竹岡** でもそういうのをこれからは若い人に任せてどんどんやっていか



ないと。

**西川** そうですね。やはり車も時代とともに変わるのでしょう。僕が初めて乗った頃は「コラムじゃなくてフロアシフト」というのと同じで。コックピットではなくてタッチパネルになっているとか。

**竹岡** ジェスチャーで動かしたり、音声コマンドで動かしたりなんて、当時は考えられなかったでしょう。

**西川** それでうまくいくかどうかなんて心配するではないですか、我々は。でも彼らはそれでうまくいけばいい、慣れちゃった方がいいのだという感じだから、とにかく早いですよね。

**竹岡** 自動運転では、例えば高齢者のためとか渋滞のときに事故を減らすためとかもちろんいいのですが、私は遊びに行った先での自動パーキングシステムとかを早く

実用化してもらいたいです。

**西川** 正攻法で事故をなくす、高齢者の移動手段として、できるだけ免許を返納しなくていいように運転しやすい形にするというのは大事だと思います。やはり自由にやりたいではないですか。あるところまで来て、来年から車に乗れないなんて寂しいでしょう。

**竹岡** 本当に。「運転できるのが僕の誇りです」というおじいちゃんがいっぱいいるのですから。

**西川** もう少し工夫をして安全な状態に作っていくことができれば、もっともっとエンジョイしてもらえそうです。僕が若い頃、とにかく女の子を乗せるために車を買ったみたいな、そういうエネルギーも必要です。

車という個人の移動手段の価値は、空間としても時間としても価値

のあるものですし、かつ応用が利き、工業製品としても、ものすごく価値の高い芸術性もあるものでしょう。そういうものの価値は簡単には磨けませんし、いくらでも進化していくと思います。

車がコモディティ化してみんな一緒になるという見方がありますが、個人が自分のプライベートな空間を持ちながら移動するというぜいたくというか、その価値は、便利になったからこそ欲しいではありませんか。それがなくていいと思っている人は絶対にいません。だから、それといろいろな形の公共交通手段や、自動運転の環境というのが、うまい具合にシームレスにつながっていると、きっと一番便利なのです。そういう方向で先の社会を考えて、商品開発、技術開発をするというのではないかと思います。





**竹岡** そうですね。車が好きで、運転が好きですという方も満足できるし、逆に利便性のみを求める方も満足できるし、という風にやっついていかないと、あまりに最先端のものだけに偏っていくと、いわゆる車好きがつまらなくなってしまうので。

**西川** そうなんです。いろんな変化が起きるときは、みんな自分の脈絡というか、自分のアジェンダで言うではないですか。そうすると、まとまらないのです。だから、あなたが言っていることも正しいし、あの人が言っていることも正しいし、いろんな進化の方向があるのだから、それをうまく技術で実現をしていくという仕事をすればいいのです。どちらがいいのかという議論をしても始まらないと思います。

**竹岡** 今年はどのような年にしたいですか。

**西川** それぞれに進化をしなくてはいけない。進化をすればするだけ、そのリターンは来るというような世の中になってきていると思います。例えば、単純なグローバル化とか、国際化というのではなくて、質の面でも進化のようなことがあり、それは誰でもできることで、進化すると、次はもう見える景色が変わってくるという世界だと思えます。単純な規模の追求とか、国際化とかいうのではなくて、中身の進化みたいなもの



超小型モビリティ試乗

が大事な時代になってきているので、そういう面で、自分自身も自動車業界の仕事も、先に向かっていい形で進化をすることが見える、東京モーターショーもちょっと進化したというのが見える年だといいですね。そうすると次、もう一丁やってやろうかという気になりますよね。

**竹岡** 確かに。個人的には、今年はこれをやろうと思っていらっしゃることはありますか？私は今年、実はラリーにチャレンジします。自分でレーシングチームとそのための会社も作って、3年後には夢は大きくWRCに行こうと思っています(笑)。

**西川** すごいですね。子どもの時は

野球に憧れ、学生時代はバスケットボールをやっていました。テニスもやっていましたし、昔は自分でスポーツマンだと思っていましたが、今は何もやっていません。個人的にやりたいことは、全然違う業界の方などいろいろな方とお付き合いしているのですが、もう少しいろいろなお付き合いを広げたいと思っています。その時間をどうやって取るか。そういう時間をたくさん取って、おいしいものを食べて、おいしいお酒を飲んで、自分の世界のお付き合いを少し広げるという時間を持ちたいですね。

**竹岡** ありがとうございます。



モータージャーナリスト・タレント

たけおか けい  
**竹岡 圭**

「クルマは楽しくなくっちゃネ!」をモットーに、全ジャンルの自動車、カーライフ全般を女性視点でレポートしている。活動の場はテレビを中心に、ラジオ、イベント、雑誌、新聞、Webと幅広い。

現在、「おぎやはぎの愛車遍歴 NO CAR,NO LIFE!」にレギュラー出演中。モータースポーツ業界にも参加し、2017年は全日本ラリー選手権にプライベートターとして参戦を予定する。

日本自動車ジャーナリスト協会副会長。日本カー・オブ・ザ・イヤー選考委員。自動車技術会正会員。国や自治体、高速道路会社等の審議会や委員会の委員を務める。

会場のようす

# 平成29年自動車工業団体新春賀詞交歓会

一般社団法人 日本自動車工業会、一般社団法人 日本自動車部品工業会、一般社団法人 日本自動車車体工業会、一般社団法人 日本自動車機械器具工業会の自動車工業4団体は、去る1月5日（木）、グランドプリンスホテル新高輪国際館パミール「崑崙」にて新春賀詞交歓会を開催しました。当日は、主催団体を代表して西川会長があいさつを行い、ご来賓の世耕経済産業大臣、石井国土交通大臣よりご祝辞を賜りました。続いて、志藤部工会会長より乾杯のご発声をいただき、終始和やかな雰囲気の中、懇親が図られました。招待者及び関係者合わせて約1,850人の方に来場いただき、盛況の内に終了いたしました。



立礼（左から西川自工会会長、豊田自工会副会長、八郷自工会副会長、小銅自工会副会長、永塚自工会副会長、志藤部工会会長、大下部工会副会長、渡邊車工会会長、山口自機工理事長）



西川会長



世耕経済産業大臣



石井国土交通大臣

# 2017年 北米国際自動車ショー (デトロイトショー)

開幕 North American  
International Auto Show

## #NAIAS / DETROIT

年初めの国際ショーとして毎年開催される北米国際自動車ショー(デトロイトショー)。その年のトレンドを映し出す展示会として、自動車業界でも重要な位置づけとなっている。今秋には東京モーターショーの開催も控え、欧米や日本の自動車メーカーが多くの関心を寄せる。今回は、原油価格の下落や好調な米国経済を背景に、ピックアップトラックや多目的スポーツ車(SUV)の展覧が相次ぎ、各社ともラインアップの拡充や機能を充実させることで更なる販売拡大を狙う動きが目立つ。一方、グローバルで進む環境規制への対応を見据え、電動車両の新型車やコンセプトカーも披露された。

<http://naias.com>

### トヨタ自動車



1 トヨタブランドでは、新型「カムリ」やピックアップトラック「タコマ」など、米国で販売する車種を展示。幅広いユーザー層に対し、豊富なラインアップで対応し、米国での更なる販売拡大につなげる。

2 世界初披露された新型「カムリ」は、プラットフォームを含めて車両を全面刷新。新開発したパワートレインやスポーティなデザインで、米国ミッドサイズセダン市場の盛り上げにつなげていく。

3 レクサスブランドでは、フラッグシップモデルの新型「LS500」を中心に紹介した。11年ぶりにフルモデルチェンジしたLSには、同社の最新技術を多数搭載。自動操舵で衝突回避を支援する初採用の安全装備も充実させた。

# 日産自動車

North American International Auto Show #NAIAS / DETROIT <http://naias.com>



## Vmotion 2.0



- 1 日産自動車のブースでは、ゼロエミッションをはじめ、次世代技術を全面的にアピールした。
- 2 将来のセダンの電動化・知能化に対する考えをコンセプトカー「Vmotion2.0」で表現した。

- 3 米国の旺盛なライトトラック需要に対応するため、SUVのラインアップを拡充。米国市場に初めて「ローグスポーツ」(欧州名キャシュカイ)を導入する。
- 4 インフィニティブランドでは、可変圧縮比エンジン「VC」ターボを搭載した中型SUVのコンセプトカー「QX50コンセプト」も出展するなど、最先端の技術の取り組みを紹介した。

# 本田技研工業



- 1 ホンダは、北米トラック・オブ・ザ・イヤーを受賞したピックアップトラック「リッジライン」を出展し、商品力の高さをPR。
- 2 コネクテッド技術も重視。乗客同士をつなげる機能を充実させた新型「オデッセイ」やアキュラブランドのブースでは、より快適で安全な運転を可能とする技術を充実させた最新のコックピットも設置した。
- 3 アキュラブランドでは、「MDX」など、人気モデルのSUVの展示が並んだ。



## マツダ



マツダは、クロスオーバーSUV 新型「CX-5」を出展。「魂動デザイン」のコンセプトをより高い次元へと昇華させるとともに、新色の「ソウルレッドクリスタル」も採用。先進の環境安全技術「スカイアクティブ」も紹介した。



## 海外ブランド



- 1 ガソリン車を追い風に、米国自動車メーカーを中心にライトトラックや高級車がブースに多数並んだ。
- 2 人気モデルに改良を加えて機能を充実させることで、販売拡大につなげている。
- 3 欧州メーカーは電動化へとシフトする姿勢を強めており、電気自動車や自動運転機能を備えたコンセプトカーの出展が相次いだ。

## 富士重工業



富士重工業は、2018年型の「WRX／WRX S TI」を出展。外装デザインを一新するとともに、内装にも工夫を凝らして質感を向上させた。

## ショーの目玉企画



1 各社のブースでは、最新技術を体感できるデモ機が設置され、来場者の視覚に訴えかけることで最新技術の魅力を伝えた。

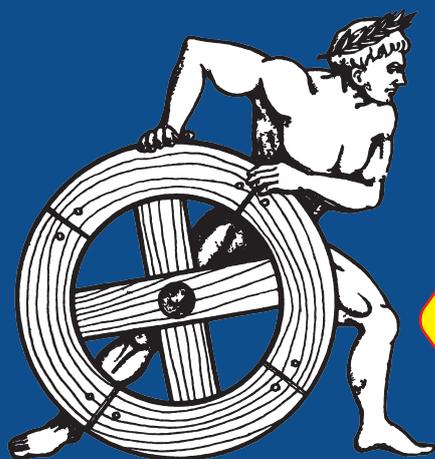


2 自動車業界に関連した様々な基調講演も開催された。

## 第45回東京モーターショー 2017

会期：2017年10/27（金）～11/5（日）

会場：東京ビッグサイト



## 第45回東京モーターショー2017 ショーテーマとテーマロゴの決定

一般社団法人 日本自動車工業会（会長：西川 廣人）は、第45回東京モーターショー2017（会期：2017年10月27日（金）～11月5日（日））のショーテーマとテーマロゴを決定しました。

自動車業界を取り巻く環境は大きく変化しつつあります。画期的なテクノロジーが次々と生まれ、人と自動車の付き合い方も多様になりつつある今、東京モーターショーは次世代モビリティ社会においても、より発信力のあるイベントであり続けるために進化していきます。

東京モーターショーは、自動車産業の枠を超えて、さまざまなアイデアやテクノロジーを取り入れ、「これまでのモビリティの価値を拡張していく」というビジョンを掲げ、大きく生まれ変わるための取り組みをはじめます。

2017年は、その飛躍のスタートとなる年として、未来につながる「第45回東京モーターショー2017」にすべく、「**ステートメント（宣言）**」を設定。この思いをショーテーマとロゴデザインに表現いたしました。

入場券お持ちの方 Entrance for Ticket Holders

# TOKYO MOTOR SHOW 2017

## 世界を、ここから動かそう。

クルマの進化は、これからどこへ向かうのだろう。その答えは、きっとひとつではない。もしかしたらそう遠くない未来、クルマという概念は今とはまるで違うものになるのかもしれない。けれど、思い出そう。クルマの本質とは何かを。それは人を動かすものだ。ココロを動かすものだ。私たちの可能性をひろげ、自由にするものだ。クルマが変われば、人やモノだけでなくもっと多くのものを動かせる。社会を前進させ、境界を超えて世界をもっと自由にできる。だからこそ東京モーターショーは、クルマという枠を超えて生まれ変わろうと思う。世界最先端のナレッジがぶつかりあい、新たなイノベーションやビジネスを生み出すイベントへと進化する。時代とともに成長しながらモビリティ産業の次のミッションを指し示す。さあ、回転数を上げよう。あらゆる境界を超えて、クルマの未来を拡張していく冒険のはじまりだ。

TOKYO MOTOR SHOW 2017  
BEYOND THE MOTOR  
TMS

### ■ショーテーマ

このテーマは、開催年ごとにクルマの価値や楽しさを拡張しながら、業界の垣根を超えて世界最先端のナレッジが集まり、新たなイノベーションやビジネスを生み出せるようなイベントを目指すという思いを込めたものです。

### ■ステートメント

### ■テーマロゴ

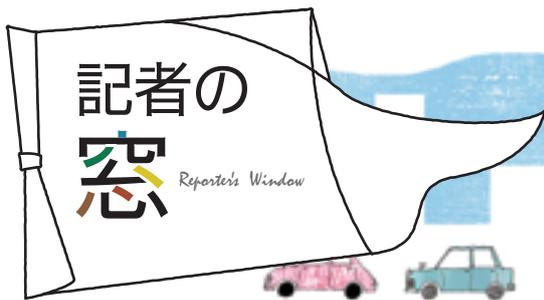
ショーテーマを表すテーマロゴとして、TOKYO MOTOR SHOWの頭文字である「TMS」をデザイン化したロゴタイプとの組み合わせにより構成しています。これまでの自動車産業の枠を超えてさまざまなアイデアやテクノロジーを取り入れた、新しいモビリティの価値を拡張していこうという、我々のビジョンを表現したものです。

ショーテーマである「世界を、ここから動かそう。BEYOND THE MOTOR」を具体的に表現するため、これからのモビリティ社会に関わる幅広い企業にも参加いただき、よりテーマ性を重視したプログラムを実施します。

また、現在注目度の高いヴァーチャルリアリティ（VR）等の最新技術によって体験を拡張する「参加体験プログラム」や、業界の垣根を超えて次世代モビリティ社会のキーマンが集う「カンファレンスプログラム」等の検討を進めております。

これらの新しい各プログラムにより、これまで東京モーターショーにご来場いただいていた自動車ファンや、国内外のメディアの方々に加え、より多くのお客さまに楽しんでいただけるモーターショーとして進化したいと考えます。

**2017年10月、新しい東京モーターショーにご期待ください。**



日本経済新聞社

とし こうすけ  
杜師 康佑

## 広島という街 .....

⊗ 去る2016年は広島県出身の私にとって、思い出に残る一年になった。プロ野球・広島東洋カープが25年ぶりとなるリーグ優勝を果たし、黒田博樹、新井貴浩の両選手がそれぞれ日米通算200勝、2千本安打を達成した。

⊗ 多くの人の感動を呼んだのも、カープが常勝軍団ではなく、長い低迷期を抜け、広島市民とともに復活を果たしたというストーリーがあったからではないかと思う。広島市内の商店街に大きな樽を置き、マツダスタジアムの開業資金を市民から募る「樽募金」なる活動があり、私も小銭を投げ入れた記憶がある。小さい頃は親や祖父母に連れられ、今はなき広島市民球場に足を運んだ。選手だけでなく、球団関係者やファンの努力や思いが実ったのだと思う。

⊗ 今年で84を迎える私の祖父は昔、マツダで働いていた。1959年に入社し、本社工場や防府工場の生産ラインで、車台やドア、ボンネットの組み立てなどを担当していたそうだ。1963年に発売された「ファミリアバン」は大ヒットとなり、工場も組み立て作業に追われたという。工場の中からは見えないユーザーの声が耳に届くような気持ちになり、若かりし頃の祖父は「マツダを誇りに思った」と振り返る。

⊗ ただ、マツダは順風満帆だったわけではない。1970年代のオイルショックの際は景気低迷のあおりを受け、経営不振に陥った。積み上がった在庫を減らすため、工場で働く祖父は営業現場に出向き、一台でも多く車を売る努力をしたそうだ。「どの企業でも浮

き沈みはあるが、苦しい時期に会社を支えた人たちがいた」と昔を語っている。

⊗ 現在のマツダは円高を克服し、復活を果たしている。昨年末にフルモデルチェンジが発表された「CX-5」は素晴らしい車だと思う。祖父も「いまのマツダは個性的で、今後がとても楽しみ」だそうだ。

⊗ 私は映画が好きで、休日にはときどき映画館に足を運ぶ。2016年に観賞した作品の中で最も心に残った作品の一つが、この史代氏原作のアニメーション映画「この世界の片隅に」だった。第2次世界大戦中、広島から軍港のある呉に嫁いだ主人公・すずの姿が描かれている。

⊗ 「この世界の片隅に」は戦争映画だ。映画の終盤に近づくにつれて、戦火は呉の街に及び、すずの生活も変化を余儀なくされる。こうした苦難を経験しながらもひたむきに前を向くすずの姿は「感動」の一言だけでは決して言い表すことができない。映画は傷つきながらも戦後の復興を予感させる描写で結末を迎える。

⊗ カープもマツダも広島という街も、歴史の中で低迷と復活を繰り返してきた。長い歴史や産業のうねりの背景には必ずそれを支え、ときに涙をのんだ人々がいるはずである。普段の仕事では企業経営や新車に目が向きがちだ。だが、自動車産業は人が支えているということを心に刻み、時に思い出しながら取材活動に取り組みたいと考えている。



## 自動車図書館の沿革と利用案内

日本自動車工業会がある日本自動車会館の1階には自動車関連の資料が収蔵してある図書館があります。前身は自動車工業振興会図書館で、昭和45年に開設という伝統のある図書館です。約13,000冊の図書を所蔵しており、どなたでもご利用いただけます。会館にお越しの際は、ぜひ自動車図書館にお寄りください。

### 所蔵資料など

自動車産業と車両に関する資料を中心に、幅広く所蔵しています。また雑誌のバックナンバーもご覧いただけます。その他、交通安全やモーターショーの記録を綴ったビデオの視聴や貸出しも行ってまいります。

◇図書の分類◇ 総記（自動車、自動車工業、関連工業、産業・資源、白書）、交通（都市・交通、運輸、道路、新交通システム、交通事故）、歴史（自動車工業史、自動車会社史、自動車人伝記、交通・運輸史、関連工業史、車両史、自動車博物館、その他）、年鑑（自動車、その他）、技術（自動車工学、構造・整備、カーデザイン、安全・公害、その他）、統計（自動車、交通・運輸、産業・資源、動向調査、その他）、経営（自動車工業、ディーラー、部品工業、その他）、型録（乗用車、商業車、二輪車、諸元・形式、その他）、競技（解説一般、スポーツカー、スピード記録、その他）、事典（用語・一般、人名・企業、法律、その他）、時事（新聞縮刷版、編年史）、ショー（規定、報道記事、その他）

### ご利用について

受付でお名前をご記入いただければ、どなたでもご利用いただけます。筆記用具・ノート以外はお持込みできませんので、備え付けのロッカーへお預けください。図書館は開架式ですので、資料は自由にお手に取っていただけます。閲覧席が16席設けてありますので、ゆっくりとご覧ください。



開館時間：平日 午前9:30～午後5:00

休館日：土・日・祝日、年末年始

コピー料金：モノクロ1枚10円 カラー1枚50円

貸出：貸出はビデオのみになります。図書は貸出しておりません。

フォトサービス：1970年までの国産車のモノクロ写真を、プリント版にてお受けしております。

- お問い合わせ：一般社団法人 日本自動車工業会 自動車図書館 TEL 03-5405-6139  
〒105-0012 東京都港区芝大門1-1-30 日本自動車会館1階（地図参照）
  - ・JR線 浜松町駅北口 徒歩8分
  - ・地下鉄 都営三田線 御成門駅 出口A2またはA3 徒歩3分  
都営浅草線・大江戸線 大門駅 出口A4 徒歩4分

図書館の蔵書点検のため、2017年2月7日～10日は休館します

# ホームページのご案内

## 自工会インターネットホームページ [ info DRIVE ]

<http://www.jama.or.jp/>



### ●自工会会員各社のホームページアドレス

いすゞ自動車(株)	<a href="http://www.isuzu.co.jp/">http://www.isuzu.co.jp/</a>	富士重工業(株)	<a href="http://www.fhi.co.jp/">http://www.fhi.co.jp/</a>
川崎重工業(株)	<a href="http://www.khi.co.jp/">http://www.khi.co.jp/</a>	本田技研工業(株)	<a href="http://www.honda.co.jp/">http://www.honda.co.jp/</a>
スズキ(株)	<a href="http://www.suzuki.co.jp/">http://www.suzuki.co.jp/</a>	マツダ(株)	<a href="http://www.mazda.co.jp/">http://www.mazda.co.jp/</a>
ダイハツ工業(株)	<a href="http://www.daihatsu.co.jp/">http://www.daihatsu.co.jp/</a>	三菱自動車工業(株)	<a href="http://www.mitsubishi-motors.co.jp/">http://www.mitsubishi-motors.co.jp/</a>
トヨタ自動車(株)	<a href="http://www.toyota.co.jp/">http://www.toyota.co.jp/</a>	三菱ふそうトラック・バス(株)	<a href="http://www.mitsubishi-fuso.com/">http://www.mitsubishi-fuso.com/</a>
日産自動車(株)	<a href="http://www.nissan.co.jp/">http://www.nissan.co.jp/</a>	ヤマハ発動機(株)	<a href="http://global.yamaha-motor.com/jp/">http://global.yamaha-motor.com/jp/</a>
日野自動車(株)	<a href="http://www.hino.co.jp/">http://www.hino.co.jp/</a>	UDトラックス(株)	<a href="http://www.udtrucks.co.jp/">http://www.udtrucks.co.jp/</a>

### ●自工会会友のホームページアドレス

ゼネラルモーターズ・ジャパン(株) <http://www.gm-japan.co.jp/>

### ●主な自動車関係団体のホームページアドレス

一般社団法人 日本自動車部品工業会	<a href="http://www.japia.or.jp/">http://www.japia.or.jp/</a>	一般社団法人 自動車再資源化協力機構	<a href="http://www.jarp.org/">http://www.jarp.org/</a>
一般社団法人 日本自動車車体工業会	<a href="http://www.jabia.or.jp/">http://www.jabia.or.jp/</a>	一般社団法人 日本自動車整備振興会連合会	<a href="http://www.jaspa.or.jp/">http://www.jaspa.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車機械器具工業会	<a href="http://www.jamta.com">http://www.jamta.com</a>	一般財団法人 日本モーターサイクルスポーツ協会	<a href="http://www.mfj.or.jp/">http://www.mfj.or.jp/</a>
公益社団法人 自動車技術会	<a href="http://www.jsae.or.jp/">http://www.jsae.or.jp/</a>	一般社団法人 全国レンタカー協会	<a href="http://www.rentacar.or.jp/">http://www.rentacar.or.jp/</a>
一般財団法人 日本自動車研究所	<a href="http://www.jari.or.jp/">http://www.jari.or.jp/</a>	自動車基準認証国際化研究センター	<a href="http://www.jasic.org/">http://www.jasic.org/</a>
一般財団法人 日本自動車研究所 JNXセンター	<a href="http://www.jnx.ne.jp/">http://www.jnx.ne.jp/</a>	一般社団法人 日本中古自動車販売協会連合会	<a href="http://www.jucda.or.jp/">http://www.jucda.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車販売協会連合会	<a href="http://www.jada.or.jp/">http://www.jada.or.jp/</a>	公益社団法人 全日本トラック協会	<a href="http://www.jta.or.jp/">http://www.jta.or.jp/</a>
一般社団法人 全国軽自動車協会連合会	<a href="http://www.zenkeijikyo.or.jp/">http://www.zenkeijikyo.or.jp/</a>	一般社団法人 日本自動車リース協会連合会	<a href="http://www.jala.or.jp/">http://www.jala.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車会議所	<a href="http://www.aba-j.or.jp/">http://www.aba-j.or.jp/</a>	公益社団法人 日本バス協会	<a href="http://www.bus.or.jp/">http://www.bus.or.jp/</a>
一般社団法人 日本自動車連盟	<a href="http://www.jaf.or.jp">http://www.jaf.or.jp</a>	公益社団法人 全国通運連盟	<a href="http://www.t-renmei.or.jp/">http://www.t-renmei.or.jp/</a>
日本自動車輸入組合	<a href="http://www.jaia-jp.org/">http://www.jaia-jp.org/</a>	一般社団法人 日本自動車タイヤ協会	<a href="http://www.jatma.or.jp/">http://www.jatma.or.jp/</a>
一般社団法人 自動車公正取引協議会	<a href="http://www.aftc.or.jp/">http://www.aftc.or.jp/</a>	一般社団法人 自動車用品小売業協会	<a href="http://www.apara.jp/">http://www.apara.jp/</a>
一般社団法人 日本二輪車普及安全協会	<a href="http://www.jmpsa.or.jp/">http://www.jmpsa.or.jp/</a>	一般社団法人 日本自動車補修溶接協会	<a href="https://jarwa.or.jp/">https://jarwa.or.jp/</a>
公益財団法人 日本自動車教育振興財団	<a href="http://www.jaef.or.jp/">http://www.jaef.or.jp/</a>		
公益財団法人 自動車製造物責任相談センター	<a href="http://www.adr.or.jp/">http://www.adr.or.jp/</a>		
公益財団法人 自動車リサイクル促進センター	<a href="http://www.jarc.or.jp/">http://www.jarc.or.jp/</a>		

## JAMAGAZINE 1月号 #51

発行日 平成29年1月26日

発行人 一般社団法人 日本自動車工業会

発行所 一般社団法人 日本自動車工業会

〒105-0012 東京都港区芝大門1丁目1番30号 日本自動車会館

広報室・電話番号 03(5405)6119

©禁断転載：一般社団法人 日本自動車工業会

# 絶対やめよう！ 運転中の「ながらスマホ」



自動車や自転車を運転しながらスマートフォンを操作する「ながらスマホ」は非常に危険です。  
画面に意識が集中してしまい、周囲の危険を発見することができず、思わぬ事故につながります。絶対にやめましょう。



# JAMA

JAPAN AUTOMOBILE MANUFACTURERS ASSOCIATION, INC.

---

自工会インターネットホームページ「info DRIVE」URL <http://www.jama.or.jp/> 自動車図書館 TEL 03-5405-6139

